

## 報告書

下記の通り講演会を開催しましたので、ご報告申し上げます。

## 記

1. 名 称 第14「未来へのことだま」
2. 日 時 令和8年8月17日 16時30分～18時00分
3. 場 所 オンライン(zoom)
4. 講 師 袈裟丸マリン合同会社 代表 袈裟丸 彰蔵 氏

## 5. 内 容

### ＜袈裟丸氏の歩み＞

佐賀県唐津市で海士として海の環境問題を間近で見てきた袈裟丸氏。23歳で磯焼けに気づき、25年かけ12ヘクタールの藻場を回復させた。

海づくりを、

- ①ウニ等の間引き(減らす)
- ②海藻増殖実験(増やす)
- ③関係人口の拡大(広げる)
- ④多様な関係者との協働(育てる)

以上の4ステップで捉え、本能的な感覚と併せて藻場の拡大を進めている。

Jブルークレジット認証や環境省 自然共生サイト認定、環境大臣大賞など高く評価され、「海づくりは食づくり」の信念で海の再生に挑戦し続けている。

### ＜唐津市の取り組み＞

唐津市 環境課 檜崎 徹氏より、唐津市のネイチャーポジティブに関する取り組みについてご説明いただいた。

市では年間約1061億円が市外へ流出する穴の開いたバケツ現象が起きており、脱炭素を契機に資金の域内循環を目指している。だが、単なる脱炭素推進は太陽光発電設置による生態系破壊というトレードオフを招いている現状があった。そこで市は「ネイチャーポジティブ宣言」を行い、環境保全と経済を両立させる唐津モデルを打ち出した。東北大との環境DNA共同研究や、みずほ銀行等とのネイチャーファイナンス研究など学術と金融を融合。行政を「環境価値を社会に伝える翻訳者」と定義し、個々の点の活動を面の施策へと広げる地域経営を推進している。

### ＜袈裟丸氏の取り組み＞

一般社団法人ブルーリバイブ理事の稲田氏より、ブランド専門家の視点から、袈裟丸氏の藻場再生を持続可能なビジネスとして確立する戦略をご説明いただいた。

海は物理的境界がないため個人投資が還元されにくく、漁師が主体的に再生するインセンティブが働きにくい。同法人はこの構造を打破し、藻場再生を漁師の経済的価値に変える「海を育てる漁業への転換」を掲げた。

具体的な事業は、以下のとおりである。

- ①自然回復に繋がる「天然ウニ」等のプロデュースとEC展開
- ②企業のTNFD支援や、ウニ割り体験と地元農産物を融合したバーベキュー等のツーリズム
- ③環境DNAによる袈裟丸氏の技術のデータ化・他地域移転を狙う共同研究
- ④教育や人材育成

「海を生きる、面白おかしく」を哲学に、自然再生が経済価値に直結する新しいモデルの構築を目指す。

### ＜質疑応答＞

プレイヤーの増やし方：

袈裟丸氏は、当初は漁協幹部すら磯焼けに関心だったが、全魚連などで声を上げ続けたことで

周囲の意識が変わったと述べ、当事者が主体となって発信し続ける重要性を説いた。

農水連携の模索：

参加者からカキ殻や海藻の肥料化、余剰野菜のウニの餌化が提案された。

農業への情報連携が重要であると述べた。

ゴールと公的支援：

袈裟丸氏は最終ゴールを「日本全体の海を復活させること」とし、関係人口増加による自盤強化を訴えた。補助金は年間10～15日程度の活動しかカバーできず不十分であり、現在は佐賀県の事業認定などを通じ、補助金に依存しない自立的な仕組みを模索していると明かした

## 6. 所感

第14回「未来へのことだま」では袈裟丸マリン合同会社 袈裟丸 彰蔵氏にご登壇いただきました。袈裟丸様の20年以上積み上げてきた、藻場再生への取り組みと、圧倒的な成果から、海に対する強い情熱を感じました。檜崎様からは唐津市全体で環境保全に取り組むサポート体制をご説明いただき、本講演の解像度がより一層高まりました。さらに稲田様からは、マーケティングやプロデュースの視点から現状と今後の展望をお話いただき、環境保全とビジネスを両立させて成長させる重要性を学びました。

これまで身近に感じることの少なかったネイチャーポジティブですが、袈裟丸様のように一人ひとりが行動を起こすことで改善できる環境課題であると実感しました。私たち学生も、農業をはじめとするさまざまな産業の視点から主体的に取り組んでいけるのだと気付かされる、大変有意義な講演でした。

## 7. 参加者について

今回は総勢94名のエントリーがあった。参加者の内訳としては、前回に引き続き社会人の割合が最も高く、全体の71.3%を占めた。また、今回は学生の参加率が、

14.9%の14名の参加となった。今回ご講演いただいた袈裟丸様は、未来へのことだまの初となる水産分野の経営者であったため、以前よりも水産分野の学生や関係者のエントリーが多く見られた。しかし、学生の夏季休暇期間であったため、校内掲示等の周知をきっかけとするエントリーが見られなかった。今後も学生の参加者を増やしていくために、ポスターの掲載場所を増やし、学生ポータルでの繰り返し案内をしていきたい。また、農大ビジネス研究会の学内での活動に力を入れ、SNSのフォロワーも増やして当研究会の存在の認知度を上げていきたい。

第15回の開催に向けても、より有意義なセミナーとなるよう、引き続き準備を進めていきたい。

